

如来荒神、毘沙門天、弁財天、不動明王の像

これらの像は、聖林寺の本尊である子安延命地蔵の近くに祀られており、仏教と神道の混淆（神仏習合）を示している。神仏習合は、19世紀に日本政府が2つの宗教の分離を命じるまでは、ごく一般的なものであった。複数の腕を持つ女神として描かれる如来荒神は、仏陀（如来）の優しい性質と、火やかまど、台所と関連の深い神道の神（荒神）の荒々しい性質が組みあわされた存在である。猛々しい鎧をみにまとった戦士の姿をしている毘沙門天は、四天王の一人である。四天王とは、4つの方位を守護する仏教の神である。仏教の女神でもあり、女性の「神」でもある。弁財天は知恵や音楽と関係がある。炎のような光背を背に、忿怒の表情を見せる不動明王は、仏教における五大明王の一人で、日本の仏教の一派である真言宗においては重要な守護神として位置付けられている。